入試改革「実施方針」を正確に読む！

【Part.1　共通テスト】ポイントを箇条書き！

旺文社 教育情報センター　29 年 7 月 31 日

文科省は今月 13 日、入試改革に関わる一連の資料「高大接続改革の実施方針等の策定について」（いわゆる「実施方針」）を公表した。これまで議論を重ねてきた入試改革がいよいよ本決まりとなり、33 年入試での実装へ向けて動き出したことになる。

高校・大学現場ではまず、これらを正確に読み込むことが何よりも必要だ。そこで本記事では、実施方針の内容を箇条書きにしてまとめた。全 3 回に分け、各記事はそれぞれ以下の資料を扱っている。

【Part.1　共通テスト】　「大学入学共通テスト実施方針」
　　「大学入学共通テスト実施方針策定に当たっての考え方」
【Part.2　各大学個別入試】「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」
【Part.3　基礎診断】　「『高校生のための学びの基礎診断』実施方針」

本記事では Part.1 として、共通テストについて見ていく。なお記事中では以下の表現をしている。
・新カリ入試 … 新学習指導要領での入試

全体

・目的＝大学入学希望者を対象に「高校段階での基礎的な学習の達成度を判定」「大学教育を受けるために必要な能力を把握」。
・「知識・技能」の評価も行いつつ、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価。
・教科・科目は現行ママ。新カリ入試から簡素化。
・記述式を導入。
・英語は 4 技能。検定を活用。
・1 月中旬の 2 日間に実施。
・32 年度（33 年入試）スタート。
・詳細は 31 年度初頭の「実施大綱」のほか、順次公表。
・大学への成績提供は、「記述＆マーク」の結果をあわせて。現状（1 月末～2 月初旬）から

(c)2017 旺文社 教育情報センター

1 週間程度遅らせる方向で検討。

・検定料は、記述式の導入（コスト増）や、英語の検定利用（受験者の負担増）などを踏まえて検討。低所得世帯に対する減免制度などを検討。

・CBT については引き続き検討。

・複数回実施については、新カリ入試からの実現を検討。

・新カリ入試は 36 年度（37 年入試）スタート（33 年度＝「実施大綱」予告、35 年度＝「実施大綱」）。

■■ 解説 ■■■

・従来、国語の問題は以下に分類できる。記述式ではこのうち①②に加え、③を条件付記述式で出題（④は大学の個別入試）。

①文章を部分的に解釈して解答する問題

②文章を全体的に解釈して解答する問題

③文章から必要な情報を精査・解釈して考えをまとえて解答する問題

④文章を踏まえて自分の考えを解答する問題

・素材の例としては以下。

①論理的な説明、論説等

②新聞、会議の記録、取扱説明書、報告書、提案書、契約書、法令、公文書等

③図表・グラフを用いた説明等

・新カリ以降は、CBT 等の技術開発を踏まえ、さらなる充実を図る。

【数学】

・数学Ⅰ（⇒「数Ⅰ」「数Ⅰ・A」で出題）、3 問程度。

・問題はマークと混在。

・「図表やグラフ、文章を用いて考えたことを数式で表す」「問題解決の方略を数学的に表現する」能力を評価。特に「数学を活用した問題解決」の能力を問う。

・従来、数学の問題は以下に分類できる。記述式ではこのうち①②に加え、③を条件付記述式で出題（④は大学の個別入試）。

①すでに焦点化された問題を解いて数値的に解答する

②問題を焦点化するために数式、図表、グラフなどで表現する

③事象や問題解決の方略を数学的に表現する

④証明問題など（問題解決のプロセス全体を表現）

・素材の例としては以下。

①数学的な事象

②日常生活

③図表・グラフから考えたことが解答の前提となる問題

**■■ 解説 ■■■

英語 4 技能

・検定を活用。センターが認定（＝「認定試験」）。
・高校 3 年 4 月～12 月の 2 回までの認定試験が利用可能。
・共通テストの英語も併存（現カリ入試中は併存）。大学はいずれか、または双方を利用。
・国は大学に対して、できるだけ多くの認定試験を活用するよう求める。
・大学側の利用方法は「出願資格」「試験免除（換算含む）」「加算」などを想定。
・受験者は認定試験の出願時に、センターへの成績送付を実施団体に依頼。⇒ 実施団体はセンターに成績を提供。⇒ センターは各認定試験の成績を一元管理。⇒ センターは「共通テスト＆認定試験」の結果をあわせて大学に提供。
・センターが大学に提供する成績は「試験結果＆CEFR の段階別成績」。
・共通テストの英語も 4 技能の必要性を踏まえて改善。配点等のバランスも検討。
・国は実施団体に対して以下のものを求める。
  ▶ 学習指導要領との整合性
  ▶ 検定料の軽減策（全体や低所得世帯に対してなど）
  ▶ 採点の質の確保に関する検証／CEFR との対照を示す検証
  ▶ センター試験と同等以上の実施場所（できる限り）／4 月～12 月に全都道府県で複数回の実施／人員の質・量の確保／障害のある受験者への配慮

■■ 解説 ■■■

入試制度としては、不完全・不明な点も残されており、例えば以下の点などについて、今後の検討が待たれる。

- ▶ 検定弱者（経済的、居住地上など）への対応。受験環境の公平性。
- ▶ 大学は異なる試験間でどう合否判定？「CEFR で判定しようとすると ⇒ たかだか 6 段階。なおかつ高校卒業程度とされる B1、A2 に集中して差がでない」「各試験のスコアで判定しようとすると ⇒ 試験間でスコアの比較ができない」。
- ▶ 高校 3 年生の 4 月から成績利用が可能とはいえ、各大学の入試要項の公表は 6～7 月。受験した認定試験が志望校で利用できない事態も。
- ▶ すでに拡大している個別入試、推薦・AO 入試での検定利用も、認定試験に限定されるのか。「高 3 で 2 回までルール」なども適用されるのか。

■■■

プレテスト

【28 年度】フィージビリティ検証事業（11 月、2～3 月／大学 1 年生／約 1,000 人）

・国語、数学

【29 年度】プレテスト（11 月、英語 2 月／高校 2、3 年生／約 5 万人）

・国語、数学、地歴公民、理科、英語、特別の配慮等

【30 年度】プレテスト（12 月頃／高校 3 年生／約 10 万人）

・国語、数学、地歴公民、理科、英語、特別の配慮等

【31 年度】確認プレテスト（実施については今後の状況を見て検討）

【32 年度】共通テスト　実装

■■ 解説 ■■■